

授業科目名	基礎運動学	授業形態	講義・演習	配当学期	1年（前期）
担当教員名	落合 慶之	単位数	2単位	時間数	45時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 運動学は、主に解剖学、生理学、物理学を基盤とした運動に関する学問である。 ● その基礎となる生体力学、運動に関与する主な器管の知識から学び始め、各関節の運動について学んでいく。 <p>● 基礎運動学では、正常の運動を理解していくことを主なテーマとする</p> <p>〔学習目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 理学療法の実践に必要な運動に関する知識が説明できようになる。 （これらの知識は解剖学・生理学・物理学を基盤としたものである） ● 国家試験に必要な運動学の知識について説明できる。 				
授業回数	授業内容				
第 1 回	運動学総論：運動、身体運動学、運動の表現（講義）				
第 2 回	骨運動学と関節運動学：骨運動、関節包内運動、関節包内運動の法則（講義）				
第 3 回	関節の構造と機能：関節の分類、関節の基本構造、関節周囲組織の役割（講義）				
第 4 回	筋の構造と機能：骨格筋の基本構造、筋断面積と筋力、羽状角、筋の長さ-張力曲線（講義）				
第 5 回	神経系の構造と機能：神経系の構成、運動単位、神経系による筋力の調節（講義）				
第 6 回	基礎バイオメカニクス①：力、モーメント（講義）				
第 7 回	基礎バイオメカニクス②：仕事、力学的エネルギー（講義）				
第 8 回	基礎バイオメカニクス③：重心、床反力、滑車（講義）				
第 9 回	中間試験				
第 10 回	肩関節の運動学①：肩甲胸郭関節（肩鎖関節、胸鎖関節）（講義・演習）				
第 11 回	肩関節の運動学②：肩甲上腕関節、第2肩関節（講義・演習）				
第 12 回	肩関節の運動学③：肩甲上腕リズム、筋・靭帯の役割（講義・演習）				
第 13 回	肘関節・前腕の運動学①：腕尺関節、腕橈関節（講義・演習）				
第 14 回	肘関節・前腕の運動学②：近位・遠位橈尺関節、筋・靭帯の役割（講義・演習）				
第 15 回	手関節・手の運動学①橈骨手根関節、手根中央関節、筋・靭帯の役割（講義・演習）				
第 16 回	手関節・手の運動学②中手指節関節、指節間関節、筋・腱・腱鞘・靭帯の役割（講義・演習）				
第 17 回	股関節の運動学①寛骨大腿関節、寛骨大腿リズム（講義・演習）				
第 18 回	股関節の運動学②筋・靭帯・関節唇の役割、股関節の検査（講義・演習）				
第 19 回	膝関節の運動学①脛骨大腿関節・膝蓋大腿関節（講義・演習）				
第 20 回	膝関節の運動学②筋・靭帯・半月板の役割、膝関節の検査（講義・演習）				
第 21 回	足関節の運動学：距腿関節、筋・靭帯の役割（講義・演習）				
第 22 回	足部の運動学①ショパール関節、リスフラン関節（講義・演習）				
第 23 回	足部の運動学②足部アーチ、筋・靭帯・腱膜の役割（講義・演習）				

授業科目名	基礎運動学	授業形態	講義・演習	配当学期	1年（前期）
担当教員名	落合 慶之	単位数	2単位	時間数	45時間
評価方法	<p>中間試験（32%）、期末試験（68%）にて評価を行う。 中間試験・期末試験結果を合わせたものが60%未満であった者には再試験を実施する。 なお、各試験には自身で作成したポートフォリオの持ち込みを可能とする。</p>				
教科書 参考図書	<p>〔教科書〕 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版（医歯薬出版） 運動療法学 第2版（文光堂）</p> <p>〔参考図書〕 基礎運動学 第6版補訂（医歯薬出版） 身体運動学 関節の制御機構と筋機能（メジカルビュー社）</p>				
履修上の 留意点	特になし				
メッセージ	<p>授業開始時に提示する学習目標を意識し、聴講しましょう。 また、わからないことがあれば、先延ばしせず、その日のうちに解決しましょう。</p>				